

9枚集まりました。先程行動が気持ちを変えると生意気にも言いましたが、この9枚が吹き出しであり、行動へのほんとに小さな最初的一步だと思っています。今まで話をきくだけだったのが自分から口を開いて何かを語り、そして何かを書いてそれを場に投げるといのはやはり大きな変化だと思います。そしてその延長線上に何か新しいものをつくっていくという行動の一步があるのではないかと思います。どうもありがとうございました。

**今村：**ほんとに一日お疲れ様でした。このように多くの方に参加していただき関心の高さを知りました。先ほどからでているように行動に移すこと、既に移している方はさらにプラス一步踏み出して頂くということは、昨年起きた東日本大震災のボランティア活動にもまさに言えることだと思います。現地へボランティア活動に行った多くの人達が帰ってきた後何をしているかという話になったとき、そこまでは、というケースが結構多いのですね。でも本当はそこからの一步が必要だ、ここが日本中で今求められている大切なことだと思います。またその一步を踏み出すことが世の中を住みよくすることに繋がるのではないかと思います。その第一歩に今日がなっていけばいいなと思います。自分もここで文化ボランティアというあまり詳しくなかった世界を知ることができたことは非常に有意義な時間でした。ありがとうございました。

**今泉：**木村さんと今村さん、この若い二人の発言はすごく刺激的ですね、是非地域に来て話しをしてもらいたい方がいらっしゃれば手を上げてください。

**古賀：**文化ボランティアフォーラムは今年三回目ですが、1回目二回目は文化ボランティアに関わっている方たちと、それを募集する側の立場の方たち、いわば文化に関わる関係者で開催してきたと思いますが、今回まちづくりとの関係を考えるということで、まちづくりご専門の方とまちづくり活動に関わっている方が一緒になってディスカッションをする流れになっていたのがとても有効だったと思います。違うジャンルの方から受ける刺激の大きさというのを実感しているところです。また同時にみなさんが分科会でグループになってお話しているところをみますと、ごく短時間で自己紹介というように進行役の方から振られていても結構話し込んでしまうのですね。みなさん同士の情報交換、うちはこんなことやっていてこんな問題があつて、という話題に要する時間がもっと欲しかったかなという気がしました。これは去年も思っていたことですが、私達文化に関わっている者同士の横のつながりを作るといことと、今ここにおいでの方々の団体や施設や仲間同士の話を深め、横のつながりを持ち、さらに他の分野との交流の機会をもつという多重・多層な議論の場をいろいろな形につくっていくということが結局、文化ボランティアの活動を今後も続けさらに活発化していくために必要ではないかと思いました。ありがとうございました。

## まとめ(総括)

コメンテーター 今泉 重敏氏

まとめですが、やはり重要なことは文化ボランティアの一人一人の意識改革、これなくしてはいろいろなことが発展しないと思うので、先ず視点・視野を変えてみようということです。

一つはやはり生活者の視点にたったときにどうかということです。例えば先ほど話しましたが森を見る視点とか、視野を文化ボランティアだけでなくいろいろなものに広げていこうということです。あと仮想体験です。これは今日の話には出ませんでした。全体をまとめるとそんな感じかな、というのは説明しているときにも相手の立場に立ってする。どうしても知らせよう教えようと一生懸命になり一方的になるのですが、その方がどこから来てどういうことを知りたいのかということも考え、地域の話までしていくには、地元のことをもっと知るということで施設だけでなく、その施設の周囲の環境についても普段散歩しているときもよく見て、その方にほかにもみてもらえるような仕掛けが必要だということです。

二つ目は、住みやすい町をつくるために私達は活動しているのですね。最終的にはそこだと思います。そういうことを皆さんが共有しているとそれを考えることにより意識の改革ができ、ふれあい交流・連携、先ほど古賀さんがおっしゃったメンバー内の交流、他団体との交流になると思います。今日はフォーラムということで全体の流れにしましたが、この合間々々に他団体との交流をしていくことも必要です。あと視察や意見交流ですね。他団体との交流の中から連携が生まれることもあります。交流と連携は少し違います。交流とは触れ合って、あーおたくは何していますか、と言って酒を飲んだらそれで終わりというのが交流です。お互い何か一緒にやろうと思ったら信頼関係が生まれなければやることに繋がりません。その信頼関係を構築するためにふれあいの場が必要ということです。こうして連携が生まれます。

三つ目が情報の受発信ということで、先ほど話に出た各団体のカルテみたいなものが出たらいいですね。共通のカルテで私達はこういうところが自慢です。こういうところが少し問題です。これからこんなことをしようと思っています。など簡単なカルテがあると見せ合い、ああ私達が弱いと思っていたことがあちらは強い、ならばあちらからノウハウを貰おう、というような情報交換の場になります。それを一つのファイルにしてみなさんが共有しておく、こことこういうことをしよう、またそれをパネルにして自分達の活動はこのようなことをやっています、というふうに一枚まとめておくといいですね。そうすると今日のように人が集まる時パネルを並べれば各団体の活動が全部見え情報がすぐ取れます。A1サイズのパネル化ですね。

あと facebook のことですが先ほど言ったインターネット技術を使って、いろいろ情報交換することも必要になってくると思います。これは若い人を中心にするほうがいいと思ひ

ます。こういうもので我々も他国と繋がっています。国会議員にも繋がり、ああ今泉さんそのアイデアいいね、今から委員会に出すから、こんな感じですよ。はやい、はやい。繋がっている人とそうでない人では情報の量が違ってくると思います。当面何をすべきか、ということですが、是非先ほどのカルテづくりをしましょう、また今村さんや木村さん、古賀さんたちをアドバイザーとし招き、課題解決に向けてのワークショップを開くとおたくの団体はこういうことが課題だからここを解決しましょうと、アイデアを出してくれると思います。そういうことを団体ごとにやっていく、あるいは行政の方に文化団体を集めてもらいそこでワークショップをやるというようなことですね。それと施設系とまちづくり系団体の交流ですね。福岡県には広域地域振興課という部署があります。その地域づくり協議会が主体となって各地域ブロックに呼びかけ、まちづくり系とかそういう団体が集まったの交流会をやりますので、その中にみなさん入っていただき一緒にやっていく、そうすることにより連携が必ず起こってくると私は思っています。それと先ほどつなぎ役の方が4割もいるということですから、そういう方々につなぎ役としての活動をするための必要ポイントなどの講座・学習会を開いてもらい実際に地域でつなぎ役になってもらう、このようなことをやるべきかと思います。行政に対する役割としてはそういうアドバイザーが派遣できる制度を是非作っていただきたいと思うし、県には派遣制度がありますので、私もお手伝することにやぶさかではありません。木村さん今村さんも派遣できる制度を設けるように県にいいこうと思いますので、その時はよろしくお願いいたします。情報提供はもちろんです、こういうふうな交流機会を是非市町村別でやるといいのかなという感じがします。

最後は木村さんの言葉を借りました。未来創造型の文化ボランティアを目指しましょう。攻めのボランティアという形で、今まで受身だったがこれからは前向きに攻めのボランティアを続けていきましょう。そういう魅力的なところに人は集まってくるし、若者も寄ってきます。そういうところがいくつか出てくることによりまた周りも応援してくれる、そういう仕組みもできるかなと思います。最後の総括としてこれからは未来創造型の文化ボランティア、そのためにはふれあい交流も必要ですし、来年を是非文化ボランティア交流元年と位置づけ交流が深まればと思っています。私がまとめさせていただきましたが、まとめができたのも木村さん今村さん古賀さんそして田中さんのお陰ですから四人に対して拍手をお願いします。忙しい中、集まってくださった皆さん自分自身にも拍手をお願いします。ありがとうございました。